

三本木高校と附属中学校の生徒が遊々の森でブナを植樹

平成22年 5月24日
三八上北森林管理署

青森県立三本木高等学校・附属中学校の3年生、約80人が、奥入瀬溪流近隣の幌内山国有林に設定した「遊々の森（三本木 夢と生命の森）」において、昨年に引き続きブナの苗木を植樹しました。これから31日まで、中学生と高校1年生の生徒達がそれぞれ植樹を行い、約4千8百本を植える予定。

初日にはセレモニーが行われ、長谷川校長からは「10年先や100年先の森の姿を想像して、一生懸命植林してください。」と挨拶があり、続いて来賓の挨拶として、東北森林管理局青森事務所 小林所長より、「あいにくの雨となりましたが、植樹にあっては恵みの雨。一生懸命植えてください。」、続いて、国土緑化推進機構 杉山基金業務部長から「現在使っている木材は先祖が植えたもの。皆さんが植樹したブナが大きく育ち、後世の人々が豊かになるよう願いましょう。」との挨拶がありました。

続いて、当署職員による模範植樹が行われ植樹開始となりましたが、雨でぬかるんだ斜面に苦戦しながらも、昨年一度経験したこともあり、唐鍬の使い方にもだいぶ慣れた様子で、みんな楽しみながら植えていき、予定していた800本を無事に植え終わりました。最後に記念標柱を立て、本日の植樹を終了しました。



小林所長の祝辞



ブナの苗木を抱えていざ出発



一本一本丁寧に植樹



記念標柱の前でポーズ